

令和7年度 第2回学校関係者評価委員会 報告

- 1 日 時 令和8年2月10日（火） 14:00～15:00
- 2 場 所 本校会議室
- 3 出席者 外部評価委員3名、本校評価委員6名 計9名
- 4 日程等
 1. 学校長挨拶
 2. 学校評価結果報告
 3. 総括評価・意見交換
- 5 協議内容（学校評価結果報告を受けて）…○外部評価委員から ●本校評価委員から
 - 1年生のうち13名がいじめや人間関係に「不安（C判定）」を示している点を注視すべきではないか。
 - 13名という数字は、些細な悩みも拾い上げる体制の結果と捉えている。現時点で「いじめ」として認定された事案はないが、定期的な教育相談やアンケート、担任による観察を密に行い、SNS等の社会的背景も踏まえた「予防的ケア」を徹底したい。
 - 宿題の量や質について、教員間の連携や生徒の負担感はどう制御しているのか。
 - かつての一律で機械的な課題からは脱却している。現在はICT教材「スタディサプリ」を活用し、個々の習熟度に合わせた最適化を図っている。
 - 県が推奨する「マイボール・マイチャレンジ（生徒が自ら学習目標と内容を決めて取り組む自律型学習）」への移行を推進し、受動的な「宿題」から能動的な「学び」への転換が必要である。
 - PTA活動について、コロナ禍を経て活動は簡素化傾向にあるが、保護者の中には「高校生活最後を一緒に過ごしたい、協力したい」というニーズも根強く、拡大か縮小か、今後のPTA活動の方向性について伺いたい。
 - 従来の強制的な動員は削減するが、保護者の参画意欲は学校の資産である。過度な負担を避けつつ、ICTも活用しながら、学校の様子が伝わる機会や、協力したい保護者が前向きにコミットできる「緩やかな連携」が必要ではないか。
 - 学校が実施している学習助言やいじめ対策が、生徒を通じて保護者に正確に伝わっていない。プリントやデジタルツールを活用した、より丁寧な情報共有が求められる。
 - 学習面で「勉強させられる」から「自ら学ぶ」への意識変革が見られる点は評価できる。「生徒の日」のような、生徒の自主性を尊重する企画をさらに発展させてほしい。